

看護系大学，短大専攻科，専修学校別の保健師養成について

教員と学生の保健師活動の認識等の実態調査

ヒラノカヨコ*	イケダノブコ	カナガワカツコ ^{3*}
平野かよ子*	池田信子 ^{2*}	金川克子 ^{3*}
シオミシゲキ ^{4*}	スズキアキラ	ヒラヤマアサコ ^{5*}
潮見重毅 ^{4*}	鈴木晃*	平山朝子 ^{5*}
フルヤアキエ ^{6*}	ヤマザキキョウコ ^{7*}	ヤスマラセイジ ^{8*}
古谷章恵 ^{6*}	山崎京子 ^{7*}	安村誠司 ^{8*}

目的 4年制の看護系大学で養成される保健師が急増する等保健師の養成に変化がみられるため，看護系大学，短大専攻科，専修学校の学校群別の保健師教育の現状と，学生の公衆衛生や保健師に関する認識を明らかにし，今後の保健師養成のあり方の検討に資することを目的とした。

方法 教員に対しては保健師の資格を得るため科目と総時間に占める割合，公衆衛生や地域アセスメントの教授方法，保健師活動の認識等について，学生に対しては保健師を希望するきっかけ，公衆衛生の学習，公衆衛生や保健師活動の認識，保健師等のイメージ等について，郵送による自記式アンケート調査を行った。

成績 科目数とその占める時間割合，演習時間数と実習時間数，教員数については学校群ごとに差があった。学校群ごとの学生についての差は，年齢や保健師の活動方法の認識，保健師についてのイメージにみられ，公衆衛生についての概念的な理解には差はみられなかった。

結論 公衆衛生や保健師の活動についての学生の理解は学生の年齢や演習・実習等の体験的な学習時間数と関連すると考えられ，看護系大学での教育方法や大学院課程での養成の可能性等について検討することの必要性が明らかにされた。

Key words : 保健師養成，公衆衛生，保健師活動，看護系大学，短大専攻科，専修学校

* 国立保健医療科学院

2* 秋田大学・元日本看護協会保健婦職能理事

3* 石川県立看護大学

4* 栃木県南健康福祉センター・元栃木県北保健所

5* 岐阜県立看護大学

6* 元日本看護協会保健婦職能理事

7* 茨城キリスト教大学・元保健婦教育機関協議会

8* 福島県立医科大学

連絡先：〒381-0197 埼玉県和光市南 2-3-6

国立保健医療科学院公衆衛生看護部 平野かよ子